名電工高新聞

編集兼発行
名電工高新聞部
印刷所
共生印刷株式会社

新聞部員
加藤清考
草田鐘男
田中克彦
千葉秀人
土本伸之
筒井幹也
寺浦広路
長井紀則
林田光雄
鈴木守弘

第二十一回卒業生を送る

学園開設以来 六十年

卒業生 二万四千名に及ぶ

先々代故後藤喬二郎先生が、早くも時代の趨勢電気学の重要性を達観せられて、名古屋電気学校を創立されてより、六十年を迎えんとし、卒業生二万四千名に達する大発展をなし遂げたわが電気学園。この間、愛知工業大学も創設経営され、現在では、中学・高校・大学・大学院、学生生徒総数八千有余名を容る一大綜合学園をなし、工業教育をもって時代の要望に応えている。新学制により、名古屋電気工業高等学校に改まってから、本年は、第二十一回めの卒業生一、〇一五名（高校卒業生の累計一三、九二五名）を送ることになったのである。ここに、本年度卒業生の前途を祝福するため、学校長のご所感をいただき、且つ、わが名電工高の飛躍を念ずるものである。

昭和四十五年度卒業生の動向

●卒業生徒数　電気科―四五五名　機械科―二八〇名　電子科―一〇六名　普通科―一七四名　●卒業後の動向　1.大学進学希望者―二五一名・二五%　2.各種学校進学希望者―八三名・八%　3.工業関係就職者―五二六名・五二%　4.商業関係就職者―七九名・八%　5.自宅営業従事者―五三名・五%　6.その他―三三名・二%

所感

学校長　後藤　淳

ことしの正月は、まことに天気晴朗で、暖かなよい正月でした。その故か、熱田神宮は全国一の参拝者を集めてにぎわったと新聞やテレビで報じていました。これはあらゆるいい条件が、特に名古屋地方に集まったのではないかと思います。

本年の昭和四十六年は、明治以来、同一年号としては最も長いといわれています。あるいは、日本始まって以来の、長い年代だというてよいという人もいます。まだまだ昭和時代は続くと思いますが然し、現在まで、無事平穏に過ぎた四十六年では決してありませんでした。

昭和の初期には経済不況が何年も続きました。また国を挙げての大困難にぶつかって、全国民が茫然自失という時期も経験しました。然し、これらの経済的や政治的な困難の中から、不死鳥のように寄蹟的に復活した上に、勇気を振るい起こして、学問に産業に真剣に取り組んできました。

そして、年を重ねるごとに、国力も充実してきて、世界の四等国だとか、十二才程度の国民だとか呼ばれた時代もありましたが、これも乗りこえて、遂に自由国家群のうち、総生産額世界第二位という驚異的な発展を見るに至ったというのが、今日の日本の姿であります。

このような姿は、我々の学校である名古屋電気工業高等学校でも同様でありまして、また考えればわれわれ個人の姿も同じであると思うのであります。

本校が、大正元年に名古屋電気学校として発足してから、本年で五十九年を数えております。この間は、随分と困難な雌伏時代を経過して参ったのでありますが、日本の再出発と同じ時代から、本校も漸く発展の端緒を得て以来、年を追って発展して参り現在は、自他共に許すりっぱな工業高校となったのであります。

なにをもってりっぱな学校というのでしょうか。

それは、りっぱな教育方針を持ち、これを徹底していくこと、りっぱな先生方と生徒諸君がいること、施設の充実していることの三本の柱がりっぱであるということだと思います。

このうち、さらにどれが重要かというと、一と二の項目で、建学の精神とか、校是校訓とかの精神的目標と、先生生徒の人柄や、勉学態度ということになるのではないでしょうか。

人という字が示すように、左右から支え合って立っているのが人であります。ひとりよがりでは立っていけないのが人であります。相互扶助が人であります。

それで、家庭をなし学校をなし共同体を組織し、社会国家を構成します。それぞれそのうちの成員が、愛をもって生活していかなければなりません。吹奏楽の発達は著しく、高校生活三年間――早いもので、思い出らしいことが何一ついこの間、新しい帽子をかぶって入学したと思ったら、もう卒業してきた三年間をふりかえってみました。

入学式の時、校長先生から「初心忘るべからず」という気持ちを教わりましたが、月日がたつにつれて、この言葉は頭の中から薄れていきました。

しかし、今思うとこの気持ちは何をするにあたっても、忘れてはならないものだとつくづく感じました。

そこで僕は、後輩の皆さんに、この初心忘るべからずという気持ちを、頭の中にたたきこんで何をするにも思い出してほしいと思います。

つぎに、高校生活に目的をもてと言いたい。

高校生時代というのは、人生における第一段階だと思うのです。僕はこの大切な時期に、何の目的も持たずに、ただその日その日学校へ来てぼんやりと一日を過ごし時間がきたら家へ帰るといった具合で、思い出らしいことが何一つなく、無駄に過ごしてきたような気がするのです。

だから、今、皆さんの中に、僕がたどってきたような状態で、無意味に過ごしているものが多いとしたら、考え直して、どんな小さな目的でもいいから持ってほしいそして、その目的達成に、全力をあげて突き進んでほしいと思うものです。

例えば、スポーツに参加して心身を鍛えるという目的。または、生徒会活動にはいって、学校のことや高校生としての在り方等をみんなといっしょに考えてみるのもよいではなかろうか。

高校時代に味わった経験というものは、将来、何かの役にたつわけであります。

皆さん、長いようで短かい高校生時代に、何を学びとるかを考えず、結果は、音楽ファン、吹奏楽ファン、名電工バンドファン等、県下は勿論、三重、岐阜方面からも押しかけ、立見席を含め、定員の千六百人満員の大盛況の中に終った。

卒業に際して

E3A　伊藤皇二

吹奏楽部 第六回 定期演奏開かる

定例の第六回、名古屋電気工業高等学校吹奏楽部定期演奏会は、一月十六日（土）午後六時半より、勤労会館ホールに於て行われた。

鶴舞公園南という地理的条件もあって、聴衆の入りを懸念された が、結果は、音楽ファン、吹奏楽ファン、名電工バンドファン等、県下は勿論、三重、岐阜方面からも押しかけ、立見席を含め、定員の千六百人満員の大盛況の中に終った。

会は、校長先生の挨拶から始まり、第一部の吹奏楽のオリジナル曲。特に本年は、アメリカの吹奏楽作曲家ロバート・ジャガーの曲を重点的に取り上げ、吹奏楽ファンに、吹奏楽の近年の動行と指針を示した感があった。第二ステージは、昨年に次いでステージドリルで、吹奏楽の目でみる楽しさを披露した。第三ステージは、昨年は生誕二百年ときわれたベートーベンの、不朽の名作、第五交響曲運命から、第三、第四楽章を演奏。吹奏楽で交響曲をと、意慾の程を示し、特に第四楽章は、交響楽的なハーモニーを醸し出し、すばらしい出来ばえであった。最後第四ステージは、例によって、ポピュラーの、「野生のエルザ」「蝉ニャ」の二曲、八木節は会場全員の手拍子のリズムに合わせての熱演で、約二時間の演奏会を閉じた。

ステージドリルの人文字

論説 自覚

最近工業の発達は著しく、高度成長などと騒がれていたが、今日この頃転換期にはいろうとしている。しかし、その成長の度合いは高いものとなっており日本のGNPは世界第二位を示を敬まった。現代では豊作だといっている。そのためかわれわれの住んでいる環境も変わり、騒音、ヘドロ、光化学スモッグなどのような公害の言葉をよく聞かされるようになった。

しかし、工場の廃液などによって自然が侵されるように、われわれ自身のものの考え方、感情などつまり人間性も、むかしにくらべてひどく変わってきていることに気がついているだろうか。いや気がつかずに誤まろうか。むかしはそれがどうあろうあろうか。正月などのように神と結果的によかったと判断したとき、

高校生活の意義

高校生活とは人生における重要なポイントである。

この高校生活三年間に、理想像を完成するための基、土台がつくられ、かたちづくられて少年から社会人へと脱皮していくのである。

この時期は、精神的にもかたまり、理想像の完成を目指し学問にはげみ努力を積み重ねていくのである。社会人として未完成な高校生活は、周囲の環境や習慣に対して敏感に反応を示し、それによってどうか。いや気がつかずに誤まろうそのようにでもかたちづけられた道をそのまま進んでいはしないだろうか。

つい三年ほど前の時代は神を信じていた、というよりも、むしろありがたく思っていたが今日の時点で神を信じ、敬まっている人はいったい何人いるのであろうか。正月などのように神と結果的によかったと判断したとき、

―学校祭―その前進のために

毎年二学期の恒例行事として開催されている学校祭。本年度も付属中学校と共催で、十月十六日から三日間、次のように行なわれた。

一〇月一六日　映画の会
同　一七日　講演の会
同　一八日　吹奏楽の会
そして　この三日間を通して
生徒作品の展示会
生徒会主催のバザー

この学校祭に対して、校長先生からは、次のように、御教示をいただいたのである。

学校祭は、名古屋電気学園の歴史と伝統を基盤にして、生徒会が主体となり、諸先生の"き助言により、三千余名の生徒諸君の若さと情熱とを傾注し、創意と工夫とを結集し、はなばなしく展開されるものである。

私は生徒諸君の平素の学習が学校祭万般ににじみ出て、その成果は見るべきものがあると確信します。今年はとくに、電気電子、機械各科、あるいは、理科室の諸設備が一応整備され、これによって、生徒諸君の真面目な実験実習を待さんにお目にかけ、また模擬店が開かれて、生徒諸君相互の親愛と友情を深めようとするのも、新しい企画のひとつである。

このような、校長先生のご期待に対して、生徒会長は次のように対えている。

学校祭は低調で変わりばえがしないと言われてきたが、その反省として、もっと面白く楽しいものとして盛り上げるために、展示会の作品や吹奏楽部、生徒出演の内容を充実し、学校祭をとおして、明日への創造を期し、生徒自体の前進と協力を希っている。

そして、実行委員長は、

私達生徒ひとりひとりが、人間的に進歩すること、各人の賢明な生き方を創造することだと指摘している。

このように、校長先生を始め学校当局と生徒会が一体となって、前進する名電工高を目指して、四十五年度の学校祭が開かれた。盛会裡に学校祭が展開されたことは申すまでもなく、そのポイントであった。

1.若さと情熱を傾注し
2.創意と工夫とを結集し、
3.親愛と友情が深まったものと、一応合格点がつけられると思う。

しかし、今静かに反省したとき、かろうじて合格点がつけられたと見るべきではなかろうか。

確かに、生徒会役員・クラブ部員を中心とする盛り上がり、即ち若さと情熱のほとばしるものが感じられ、運営面・内容の点において、少なくとも、最近に見られない進歩と創造のあとが見られたと好評も受けている。

だが、さきにいったように、かろうじて、合格点がつけられたというはがゆさを感じるものである。

吹奏楽部のすばらしい演奏、生徒自身の手による実験実習、友情を深めた模擬店・バザーの新企画美術部・書道部・写真部らを中心にした生徒作品、名古屋市青少年館長先生の講演、くだけた映画の鑑賞等々、学校祭を一歩前進させてくれた。

そこに、学校祭の楽しみを味わい、学校祭のよさが見られた。

しかし、明日への創造を目指しそのためには、生徒諸君の平素の学習がにじみ出るものであってほしいと期待され企画されただけの成績が、じゅうぶん上がらなかったこと、ひとりひとりの生徒に徹底しきらなかったことを残念に思うものである。

その原因の最大なるものは何であろうか。

一言にしていうならば、われわれ生徒に、学校祭の主役であるべきわれわれ生徒に、創意と情熱がまだ不足しているものがあるということではなかろうか。

期待されているにもかかわらず生徒のひとりひとりが、どの面にいい道徳が残っていて、だいたいどのような場合にも、男女交際は好奇の目でみられがちである。

▼まず異性間に、自分の手で明るく健全な交友関係を作っていかなければならない。それには、悩んでいる事を多くの女性と、率直に話し合うよう自分達自身で心掛けかつ努力することである。

▼だが、せっかく生まれた明朗な関係でも、くずれてしまう場合もある。それは親などの無理解のためである。しかし一方、ほんの一部ではあるが、ゆきすぎた友情ともいえる交友関係におちいり、周囲の注目をあび、白い眼で見られている人達がいることもたしかな事実である。

▼ここでいちばん重要なことは、友情と恋愛感情とを混同してはならないということである。

私たちは、異性との心の触れあいからくる親しみを、ややもすると、恋愛感情に受けとってしまいがちである。

どこまでが友情であり、どこからが恋愛であるのか判断は非常にむづかしい。

私たちが高校生である以上、自らそこに限界があって、やむを得ないことと思う。

▼ここで、なにも友情が恋愛に進んではならないというのではない。ただ、好奇心や独占欲が、健全な男女の交際にひびを入れてしまうのを恐れているのである。

要は、異性であることを、必要以上に意識しなくて、さっぱりした健全明朗な友情を育てるべきではないか。

▼男女交際の根本精神は、異性を理解することによって、互いの人間形成に役立てることである。

生徒の作品

詩

「ある日記より」
E―D　木村正克

俺は何かを求めて進んでいる
それは何だかわからない。
ほんとうというか真実というか
俺はそのものをつかみとりたい、
それは青春の神髄
それは爆発的なものではないか、
清らかで美しく
かつまたたくましいものだ。
見ろ！青い空に気持ちよさそうに
流れていく雲を、
聞け！そよ風の中の歌
考えろ、！青春とは何か、若者と
何であるかを
知れ！生きていくことを
語り合おう！友よ！　恋人よ！
大空の彼方の白い雲に
すさんだ心をあずけていたら
今、俺はどこにいるだろうか

「雲」
E三F　森島一好

俳句

鴨帰る濃き夕焼に染まりつゝ　E二C　森秀之
手のひらに肌なめらかな梨を貰づ　E二E　坪井克巳
秋深し木曽の山並くっきりと　E三A　新納幸朝
稲の穂の垂れて畦道ふさぎけり　E三A　堀良光
海かけて今日も一群渡り鳥　E三F　高橋義久
薪積んで木曽の山家は冬仕度　E三F　加藤郁雄
五十鈴川底の石まで夕焼けて　R三A　高橋彰治

コラム

現在、高校生の非行は目に見えて伸びつつあるがどういうことだ知れぬ。二・三年をはじめ、一年生にもなんらかの非行につながることを多少なりとも経験しているのではなかろうか。学校になれるにしたがって補導件数が増して来るのもその事実を証明している。

物陰でタバコを吸っているのを見る度に、好気心をかりたてられその結果、こっそり吸うようになり、それがたび重なるに従って気が大きくなり、人前でも吸うようになる。

誰しも親に注意されるのは他人から言われるより気にさわるから当然親のいないところでおとなぶってタバコをくわえたまま町を出歩きたくなる。このようなことをしても自分ではいっこうに悪いことに気がつかないものだ。もし友達がそれを止めようとするならば反対におどかされその人までいっしょになって吸うことになり、仲間に加えられ、そのようにして人数がふえていくのであろう。

もう一つ例を上げるなら、二年ぐらい前から市内で流行しはじめたボンド遊びも、タバコの例とさしてかわりがなく、これも一種の好気心からの遊びである。

中学の時分から遊びを覚えた者が高校に入ってから、自慢気に級友達にそのやり方を教え、それを聞いた連中も、「一度だけなら」とはじめることになる。一度の好気心が二度・三度とたびかさなって行く。

ボンドはタバコと違い、一・二回もやれば、いやけがさしてきて自分でも悪いと自覚するようになる。けれども回を重ねてやる間に能力が衰え、気が大きくなり、やたらに暴力をふるいたくなり、盗みなどの行動に走ることになる。こうなった場合、その者は人間失格である。

高校生活三年間に、このような非行への第一歩に踏みこむ危険を体験する者が、かなり多いのではなかろうか。

その動機が単純で、恕すべき行為だ等と軽視してはならない。

これを未然に防ぐには、第一われわれ自身の自覚にあるとともに誘惑をしりぞける強い意志を育て先輩や両親や、そして先生の忠告をすなおに受けいれる心構えが、大切である。

＊　＊

現在高校生の多くが異性の友を求めている。

▼ところが男女間の交際は、周囲から誤解されやすく、同じ年齢の人々からいろいろといわれることの恐しさ、煩わしさのためか、男女間の自由な交際は行なわれていない。一方おとなの間ではまだ古い道徳が残っていて、だいたいどのような場合にも、男女交際は好奇の目でみられがちである。

▼まず異性間に、自分の手で明るく健全な交友関係を作っていかなければならない。それには、悩んでいる事を多くの女性と、率直に話し合うよう自分達自身で心掛けかつ努力することである。

▼だが、せっかく生まれた明朗な関係でも、くずれてしまう場合もある。それは親などの無理解のためである。しかし一方、ほんの一部ではあるが、ゆきすぎた友情ともいえる交友関係におちいり、周囲の注目をあび、白い眼で見られている人達がいることもたしかな事実である。

▼ここでいちばん重要なことは、友情と恋愛感情とを混同してはならないということである。

私たちは、異性との心の触れあいからくる親しみを、ややもすると、恋愛感情に受けとってしまいがちである。

どこまでが友情であり、どこからが恋愛であるのか判断は非常にむづかしい。

私たちが高校生である以上、自らそこに限界があって、やむを得ないことと思う。

▼ここで、なにも友情が恋愛に進んではならないというのではない。ただ、好奇心や独占欲が、健全な男女の交際にひびを入れてしまうのを恐れているのである。

要は、異性であることを、必要以上に意識しなくて、さっぱりした健全明朗な友情を育てるべきではないか。

▼男女交際の根本精神は、異性を理解することによって、互いの人間形成に役立てることである。

高校生活には「コース」がある！
学力を伸ばし知性を高める
高1コース
毎月14日，全国でいっせい発売
学力を伸ばし進路を決める
高2コース
現役合格をめざす高3生に
高3コース　大学受験
「コース」三誌は高校生に最もよく読まれている雑誌です（毎日新聞社編「読書世論調査」で一位）。「コース」とともに前進しましょう
あなたの適性職業と大学判定　電子頭脳による総合診断と指導
発行　学研　〒145　東京都大田区上池台4―40―5

健康の環を世界に
広げる森永乳業……
春です毎日午乳を飲んで
立派な身体を作りましょう
森永牛乳
玉木販売所　千種区上野町五の六五　TEL（711）2235

カラープリント
純正仕上（E判55円）
名電高生格安!!
●免許、証明用撮影
●2分間写真もどーぞ
若水カメラ
名電工前　711―1869

●七〇年代は情報省力化の時代です
わが国で数少ない専用工作機械の専門メーカーとして、マスプロ産業から高い信頼度を得る当社は、"個有技術"に裏打ちされた、ガンドリルマシン、ステーションマシン、トランスファーマシンなど各種専用機を製作、わが国トップレベルの豊富な納入実績を誇っております。
全工場（六八〇〇㎡）"冷暖房"を完備した当社
製造品目　各種トランスファーマシン・各種専用工作機・ガンドリル専用工作機
精密スピンドル・油圧送りユニット及油圧機器・加工治具
SIGA　志賀機械工業株式会社
愛知県碧海郡知立町　郵便番号472　電話　知立（0566）㊀1441（代表）

生徒会をどうみるか

座談会出席者
E3A 伊藤皇三
E2E 平田直宏
E2G 清水謙次
E3C 松島　忍
―新聞部員―

―前期の生徒会を見てどう思いましたか。―

伊藤―生徒会執行部としては前に比べてやる気がでてきたという感じ、二年前に比べて二年前の会長は、今までの会長の中で一番やる気があった。なんでも生徒の手でやるという考えをもっていたから、去年から始まった体育祭などは、だいたい生徒の手でやってきた。一番の変化はそのように生徒会を持っていったことが良かったと思う。でも議題は毎年変わらない。でも執行部の方がやるきが出てきたからこれからが楽しみだ。

―生徒会のこれからの方針は平田―投書箱があまり利用されていないから、フルに活用したいそれによって議員自身もはっきりした意見がだせるだろう。生徒会議会の方法を他から見つめてみる必要があるし、生徒の意見を取り入れた議会もやりたい。

松島―学校全体の風紀面を取りしまりたい。

つまり現在、校内を歩いてもわかるように、風紀上の黙認をしている。そういうことが多いから気をつけて行きたい。小さな問題でも、非行につながるのであるがそれを注意する生徒が少ないし、室長や議員であっても注意しないと思う。

方法としては風紀部または執行部で回って注意して行きたいと思う。

―学校の規則については、

伊藤―規則についてはいいどその規制がきびしすぎるから、生徒が反発するんじゃないかな。たとえばコートが着用されるけれどこの事について、補導部に聞いてみると、学校の許可なしに自分勝手な行動をとることになるのだが、あくまで、規定のものにするという（生徒会でも納得すみ）すなおな、ルールに従うということでなければならないという説明があった。この事が、生徒全体に、不徹底であったのだ。

―これからどのように生徒会を進めて行きますか。

平田―三年生がステップみたいなものを作って、それを土台にして、さらに二年生が飛躍をし、次を背負う一年生にバトンタッチしたい。ただ大きく変えられないので、少しでも向上させていくことが必要だと思います。後をうける生徒会役員から、前の生徒会がもう少しシッカリした土台を作っていれば、もう少し良くなっていただろうねというような批判を受けないようにやっていかなければならない。

―生徒会の行なっていることが本当に生徒に通じているか。

松島―計画としては朝礼の時に現在生徒会がどのようなことをしているのかを発表すれば、今、生徒会執行部がどんなことをしているかがはっきりとわかる。これによって生徒会と生徒の間の伝達がスムーズに行なわれそれによって生徒の意見などが活発化してくるんじゃないだろうか。

―生徒会議会の内容を生徒にどのように知らせていますか。

平田―今のところ生徒会議員によって、クラスの生徒に知らせているが、各議員によって意見がくいちがうので朝礼などの時間を利用して各生徒に知らせてもよい。

―最後に公約を一人づつ言って下さい。

志水―二、三年の先輩など見ならって行きたい。

平田―名電工生徒は、何かにつけて活気がない。その活気のないということは、生徒会にも責任があるのではないだろうか。活発な生徒会を作り、全生徒をリードして行きたい。

他校新聞にみる　生徒会活動

市立若宮商校の生徒会長の言に後期生徒会役員が認証されてから約三カ月たちました。会長としてやっていける自信はありませんでしたが、やらなければならないまっている。委員会活動にしても選出後、何をやっているのか、さっぱりわからないありさまである と訴えている。

これら他校の問題とそのねらいは、表現こそ違え、副会長の抱負のことばや座談会に出ている話し合いの内容と同じである。

われわれ生徒全体は、生徒会活動が発展するように、役員・議員たちに協力しなければならないと思う。

生徒会への抱負

副会長　R2A　小里一夫

新生徒会が発足した時、副会長に当選したぼくは、生徒会のすべきことは何であるかを考えてみた。

前期は、行事が多くて、生徒会活動が一方に偏した感じがするが後期こそ、生徒会の内容を充実させるよい時期であると思う。

考えてみて初めに思ったことは「生徒会とは何であるか」ということを、議員の中でさえ理解していない者が、あまりにも多いのではないかということである。

議会を開いても発言する者はごく少ない。

無気力で無関心の中にひたってしまっている。委員会活動にしても、何をやっているのか、さっぱりわからないありさまである と訴えている。

これら他校の問題とそのねらいは、表現こそ違え、副会長の抱負のことばや座談会に出ている話し合いの内容と同じである。

われわれ生徒全体は、生徒会活動が発展するように、役員・議員たちに協力しなければならないと思う。

生徒会への抱負

副会長　R2A　小里一夫

新生徒会が発足した時、副会長に当選したぼくは、生徒会のすべきことは何であるかを考えてみた。

前期は、行事が多くて、生徒会活動が一方に偏した感じがするが後期こそ、生徒会の内容を充実させるよい時期であると思う。

考えてみて初めに思ったことは「生徒会とは何であるか」ということを、議員の中でさえ理解していない者が、あまりにも多いのではないかということである。

議会を開いても発言する者はごく少ない。

なんだか抽象的な意見となった。

生徒会について

会長　伊藤皇二

後期は前期に比べ、大きな行事がありませんので、この機会に、生徒会というものを、もう一度考え直してみたいと思う。

今頃になっては遅いという声も聞きますが、しかし、今の生徒会をみていると考えられずにはいられない。遅かれ早かれ、いつかは考えなければならない時が来るはずである。そういう意味で、二、三年について考えてみることにする。

この頃時に出て来る問題であるが、まず風紀の面を良くすること。学校全体に何らかの形で、その効果は現われてくるものだと思う。

そしてこのことが、生徒会と一般生徒の間に触れ合いが出来、信頼され、効果が上がり、学校の評価が高まることになるのである。

われわれはそれを期待してけん命に努力を続けたいと思う。

生徒諸君も、それを理解し協力して、たのしい高校生活であり得るようにしようではないか。

声声声声

普通学校でいう放課とは、次の授業の準備をするためにあるのではないでしょうか。私たちの学校でいう放課とは、教科書の貸借のために設けられたような感じがする。もし時間割の変更でもあった場合教科書を持って来ない生徒は、ただ授業中、話を聞いているだけである。だから、授業も身に入らない、授業時間が退屈になる。つい回りの人達と話をする。すなわちその人ひとりの行動がクラス全体の迷惑となるのだ。また、教科書製図道具などが紛失するのもこのためではないだろうか。

まずここで考えなければいけないことは、教科書を借りに来る生徒だちだけが悪いのだろうか、いや決してそうとはいいきれない。

しかし何より肝要なことは、ひとりひとりが生徒としての自覚をもつことである。

＊　＊　＊

君は、今までに、どんな道を歩んで来たのか。ただ何も考えず無関心、無気力のまま青春を歩んでいるのではないだろうか。そうした青春は、君にとって、どのような得があるのか。もし、君が、こがくずのような青春に、得があると思ってるのなら、それは、一時的なごまかしであって、永久に続くものでもない。と私は、言いたい。

しかし、無関心・無気力のまま、青春を歩んでいて、はたしてよいのだろうか。

しかし、人間というものは、ものごとにもっと関心をもって積極的に、取り組んでいって始めて進歩や発展があるのではないだろうか。でも、無関心・無気力では、進歩や発展はない。だからといって、無関心・無気力の状態のまま毎日を平凡に、送っていては、こまる。

しかし、中には、関心ややる気を持っていても、いろいろなことについて、何もしようとしないが、だれかが、やらなければ、ばやろうとしない。まったく自主性がないと言われても平気な顔している。

たとえば、廊下に、ごみくずが、落ちていても、拾うことすらしない。だれかに、言われないと拾おうとしない。また、授業中に、となりの人と話したりしてもだれも、注意することなく、たまりかねて、先生が、注意するとやっと静かになるという状態だから、生徒は、積極性がないと言われてもしかたがないのではないだろうか。

しかし、こんなことではいけない。もっと生徒、あるいは、自分自身が、自覚をもって、いろいろな面で関心をもって、責任感のある行動で、取り組んでもらいたい。

名電学園発展の記念物

明治四十五年に後藤喬三郎先生が、電気講習所を開設され、矢場町にその校舎が出来上がった。翌年、名古屋電気学校と名が改められ、今日の電気学園の基が定まったのである。

それから六十年、今日の偉容を誇り、千種台に一大学園が現出したのである。

喬三郎先生は、学校の生徒は、我が子同然私がいっさいの責任をもつという信念で一貫され、その精神が、本校に脈々と生きて流れているのである。

本校に学ぶ者は、この暖かい心と広い心にいだかれて、常に精出し、実社会に出ても、信用されて業務に精進し、名電学園の名を高からしめている。その象徴が、わが学園の校主後藤家の墓所に名古屋電気学園関係物故者の慰霊碑として建てられている。

未盛通りから北に進み、姫ケ池のところから東に向かった所にそれがある。

いちだんときわだった墓石で、心ひきしまるのを憶えるのである。

校外トピックス

名工高の新聞から

このごろ校内がきたないのが目立つ。悪いことは知っていながら、誰も見ていないからといってつい下ばきで、教室・ろう下・階段へと上がってしまう。

また午後になると、いちだんとひどくきたなくなる。

昼食で、パンを食べて、苦にもせずにその包み紙などを、床の上へ捨ててしまうまとめて、ごみ箱へ捨てようと思って、机の上に置いたものが、下へ落ちて、結局そのままほかりっぱなし。

それも、自分が落したのでは無いかのように、気にもしない。そして、誰かが片づけない限り、汚れっぱなしに違いない。

これでは、午後の授業は、全くごみの中で受けているようなもの――これはちょっとオーバーな表現だが、汚れた教室で勉強するのは、全く気分のよいものではない。

（四五・一〇・二四発行）

半田工高の論説から

本校生徒はどうきで無責任な者が多いんだろう。例えば、掃除をサボる、無帽でいる、協力すべきことでも知らん顔をする。

この無責任さについて頭にくるのは、それだけの訳があるんだ。

無帽ということ――これについては、長髪になったとき「髪をのばしても帽子はかぶる」と自分達で規制を作ったと聞いている。

帽子をかぶる条件で頭髪自由？になった。多少大げさに言うと、男が一旦約束したなら守らねばならない。不可能な時でも守ろうとする意志を持たねばダメだと思う。

自分自身の約束を自ら破るから無責任というんだ。

我々は、ひとりで生きては行けない。互いに手を取り合っていくのがほんとうだろう。人間が人間であるためには、協力が大切だ。その協力が円滑にいくためには、各自が、その義務感と責任をもつことが肝要なのだ。

であるのに、このような無責任さがはんらんしている。これは、現代の個人主義のかたよった考え方があるということで、結局、個人の自覚を待つより他に方法がないというじれったさ。

これが僕の怒りにもなっている。

そして、このような無責任な風潮が、我々の中を走っている以上先生との対話、情操教育なんてのは成りたたないと思う。

（四五・一二・一九・発行）

編集後記

三学期も残り少なくなり、はや一月もすぎて、三月発刊の新聞編集に大童に取組んだ。それにしても、部員が未熟な一年生なので、お互頭をいためた。

このような多忙の中から出来たのが、この四八号の新聞である。是非読まれていろいろ感想・批判をお寄せいただきたい。

◇　◇　◇

毎年同じ頃、同じように繰り返される卒業式も目前にせまった。三年間、この学園で学んできたもの、友人との楽しかった学園生活そしてその中から得た何か、良きにせよあしきにせよ、過して来た三年間をむだにしないように、どのような社会に進んだとしても、自分のもっている能力を発揮出来る人間になってもらいたいものだそして名電工卒業生の各方面での活躍を期待したいものだ。

◇　◇　◇

進学希望者は、最後の追いこみにさしかかったことと思う。

目を赤くして、毎晩苦闘の繰り返し。単調ながら、はげしい戦いだろう。突進あるのみ、大いに頑張ってもらいたい。

大学の進学率がそのまま名電工の入学率にもつながるといってもけっしていいすぎではないだろう。多くの受験者が一様に突進しているのだ。自分ひとりだけが苦労しているのだと思わずマイペースでやってもらいたいものだ。

◇　◇　◇

各学年とも、新たなる学期に向かい、前進あるのみ。

―名電工新聞部―

私の学生時代

学校生活を省みると、海との関係をきり離して考えられない小学校・中学校時代。スポーツと読書とつながった高校時代。都会生活と学問の何かを教えられた大学時代……と、平凡ながら、自分なりにかなり変化のある時の流れを刻することができる。

知多半島の南端の町で生まれたので、こどもの頃から遊ぶ場所は海岸であり、海や舟とのつながりが深かった。

たしか、小学校に入る前から泳げるようになっていたと思う。

戦争中のことであり、警備船やき水上機などが港に入ると近くまで行ってみたりした。

魚も豊富で、漁船は海岸の近くで網を入れ、大漁の旗を立てることが多くあった。よくいわれている戦中戦後の食料難の時代も、比較的恵まれていたように記憶している。それでも、敗戦という戦ショックは子どもながらも大きかった。

昭和二十年八月十五日は大変暑い日であったこと、殆んど毎日のように名古屋その他の都市を灰にしていた空襲もめずらしいお日さまの中にとび出していったことを覚えている。

その後、戦争にいっていた父の戦死の報があるまでの二、三年間、母とよく復員船の入港を見に行ってはがっかりして帰ったりしたことがある。

比較的不自由なく、のんびりと育ったのは、母の苦労のおかげであり、幸いにも希望どおり進学できたのもそうである。

私の成長の途時、戦争から受けた影響はかなり大きなものであることは否定できない。

わりに運動がすきで、中学・高校時代は、相撲・バスケット・陸上競技などをやった。

中学のとき友だちと雨の中の大会で走高跳びの決勝を競って記録をつくったこと、高校の体育大会で、三年連続走高跳びの種目での、頼んでやるからやってみなさいかといわれて、とにかく受けてみようということになりその後大学生活を東京で送るようになった。

はっきりした目標もなく、講義を聴いていた一年の頃、何かものを足りない感じをうけ、自分で本を読むことにしたりしていたが、二年の中頃、ふっと大学の地下にある研究会に顔を出したり、顔見知りの学生たちが、熱心に専門書を前に論議しているのをみて、その仲間入りをした。その後、ここも、非行につながるのであるがそれを注意する生徒が少ないし、室長や議員であっても注意しないと思う。

方法としては風紀部または執行部で回って注意して行きたいと思う。

―学校の規則については、

伊藤―規則についてはいいどその規制がきびしすぎるから、生徒が反発するんじゃないかな。たとえばコートが着用されるけれどこの事について、補導部に聞いてみると、学校の許可なしに自分勝手な行動をとることになるのだが、あくまで、規定のものにするという（生徒会でも納得すみ）すなおな、ルールに従うということでなければならないという説明があった。この事が、生徒全体に、不徹底であったのだ。

―これからどのように生徒会を進めて行きますか。

平田―三年生がステップみたいなものを作って、それを土台にして、さらに二年生が飛躍をし、次を背負う一年生にバトンタッチしたい。ただ大きく変えられないので、少しでも向上させていくことが必要だと思います。後をうける生徒会役員から、前の生徒会がもう少しシッカリした土台を作っていれば、もう少し良くなっていただろうねというような批判を受けないようにやっていかなければなら約三カ月たちました。会長としてやっていける自信はありませんでしたが、やらなければならないという自覚がようやくできました。

方針としては、まず生徒会というものを理解してもらうことです。

僕も一年の後期、二年の前期と議員をやってきても、表面的な生徒会というものがわかってきただけです。

会長である僕でさえ、そんなくらいですから、僕自身だけでなく皆さんも、生徒会というものを勉強していただきたいのです。

他の役員も、生徒会というものを知りたいという考えが強いようです。とある。

半田工高の新聞に、やはり生徒会について特集してあるが、人と人とのつながりがバラバラ（家庭では親子の断絶、学校では教師と生徒との断絶、社会にあっては世代の断絶）、昭和元禄に酔って人々が無気力になっている時代、しかしその反面、その底には何か不満を持っている時代。

生徒会は、この時こそ自分たちの力をためさなければならない。

不満をなくし、有機的な人と人とのつながりを見出すため、殊に役員は、学校と生徒とのパイプ役になって活動しなければならないと。

また遠く、千葉県の木更津高の学校生活における生徒会活動は、一度全体を見て考え直してほしいものだと思う。

次に、各常任委員会をもっと活発にすることである。常任委員会を活発にさせるにとは、自然に、学校全体に何らかの形で、その効果は現われてくるものだと思う。

そしてこのことが、生徒会と一般生徒の間に触れ合いが出来、信頼され、効果が上がり、学校の評価が高まることになるのである。

われわれはそれを期待してけん命に努力を続けたいと思う。

生徒諸君も、それを理解し協力して、たのしい高校生活であり得るようにしようではないか。

先生紹介

教諭　滝沢秀夫

五、規律正しく、真面目な態度が良い。

六、諸君と共に情熱をもち励みたい。

七①何事も自分から求める態度が最も身につくものだ。

②諸君に完全さを求めているのではない。失敗をどう生かすか、その素直なる心を大切にしたい。

一、愛知工業大学
二、電気
三、電気科二年G組
四、読書・スポーツ

日本スポーツ賞を受ける

―フェンシング部―

インターハイに、二年連続優勝した本校フェンシング部は、過去にもその実績を持ち、斯界に尽くした功績とその努力を高く評価されて、この度、日本スポーツ賞委員会（読売新聞社）より、日本スポーツ賞の表彰を受けることになった。

まことに光栄のいたりである。

本年度出場選手も、特に傑出した者があったというのではなく、学校のためチームのために徹した和の勝利であるが、これこそ、高校生スポーツの在り方を模範的に示したものであると思う。

ここに、その戦績をあげて、更にその飛躍を期待しよう。

八月二～五日
京都市立体育館で行なわれた。

第一回戦
名電工五―二慶応（神奈川）

第二回戦
名電工五―〇山形東（山形）

第三回戦
名電工五―四清風（大阪）

準々決勝
名電工五―二関商工（岩手）

準決勝
名電工五―一電子工（宮城）

決勝
名電工五―二盛進（広島）

岩手国体で優勝

―卓球部―

八月五日から五日間、愛知県体育館で開催された全国高等学校綜合体育大会卓球大会において、本校卓球部は、優勝をかけて、第一回戦・二回戦を勝ち抜き、準々決勝において、宿敵興国高校と対したが、

興国（大阪）五―二名電工

と思わぬ敗北を喫した。

肝に銘じた部員は、その日以後日夜をつぐ猛烈な練習を重ね、雪辱の日を期したのである。

十月十一日から、岩手県で行なわれた秋季国民体育大会に代表として再び出場したわが名電工は、興国中心の大阪代表を三対一で敗り、名電工卓球部の名を高からしめ、昭和二十一年の大会開始以来七度目の優勝を飾ったのである。

次に、決勝の記録をかかげる。

愛知（名電工）三対一大阪

山下 0（21―23、12―21）2 ○田村
○小笠原 2（21―15、21―13）0 藤本
○竹内 2（21―13、18―21）1 竹田
○小笠原 2（21―14、21―18）1 藤本
山下 2（21―15、21―15）1 久世

チーム結成十六勝三敗

―野球部の記録―

名電工野球部は、本年度はチーム結成以来、十六勝三敗の戦績を残した。

鈴木監督統率のもと、日々猛練習を続けてきた部員一同の精進の賜である。

しかし、静かに顧みて悔を残すのは、東海四県の大会に県代表として出場しながらも、岐阜商高に八対一と思わぬ敗北を喫したことである。

次に、幾多の戦績を記すとともに、来年度のチーム強化に、大きな期待を寄せると共に、生徒諸君の絶大な協力を願うものである。

勝の部

8・10　名電工8―2岐阜工高
〃　2―1〃
〃　8・12　〃　3―0碧南高
〃　8・13　〃　5―0知立商
〃　8・20　〃　10―1作陽高
〃　8・23　〃　19―2菊里高
〃　7―1中部工大付高
10―0明和高
8・25　〃　3―0名商大
〃　3―0名商大

付高

負の部

9・6　東邦高11―3名電工
10・18　東邦高3―0〃
10・31　岐阜商8―1〃

◇バトミントン部

十一月三日　愛知県体育館で愛知県高等学校新人戦が行なわれ、ダブルスに

奥村裕英・横井靖一の両君優勝。

◇相撲部

八月三十日、瑞穂相撲場で行なわれた市民スポーツ祭高校の部で団体・個人戦ともに第一位となる

また、九月二十日の県民大会に於て団体戦に二位となり、学年別個人戦では、

三年　一位　神農五根
二年　一位　小田敏明

の成績をあげた。

◇剣道部

八月十七日の市民スポーツ祭に於て、団体優勝をすると共に、県高校名北支部大会

個人一位　竹内喜久
〃　村井喜久男

成田山剣道大会

個人一位　須賀桂輔

の成績を上げ、名電工剣道部の名を高めた。

陸上競技部

一〇月三日～四日
名古屋北地区新人大会（瑞穂競技場）

綜合優勝　名電工

八〇〇メートル一位　井内一生
一五〇〇〃　一位　大浦義之
五〇〇〇〃　一位　小松英樹
一五〇〇障害　一位　大浦義之
三段とび　一位　柴田英文
砲丸投げ　一位　石田博
円盤投げ　一位　同
ハンマー投げ一位　幸島伸介
十一月三日、同じ瑞穂競技場で開かれた県新人大会にも、綜合二位の成績を上げ、井ノ内・大浦・石田・幸島の四君は、その得意とする種目に一位を獲得した。

◇バスケット部

一年南地区予選リーグに優勝

名電工51（23―16、28―14）30春日井商
名電工70（44―6、26―8）14菊里高校

◇重量挙部

八月二十八日、第十二回市民スポーツ祭（県体育館）

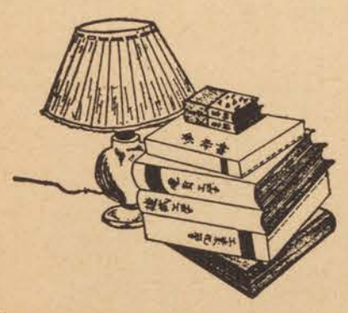
フライ級　三位　鈴木省三
フェザー級　一位　林　辰美
ライト級　二位　長谷川知重
ミドル級　二位　永田三康

◇自転車部

十月二日～三日
自転車競技大会
（名古屋競輪場）

タイムライアル
一位　岩崎龍己　二年
二位　大鹿隆史　二年
速度競走
二位　岩崎龍己　二年
個人競技
二位　大鹿隆史　二年

辞書・参考書の専門店



電気学園指定書店
正友館書店
千種区鏡池通2―13　城山中学校南
TEL（751）2717

シキシマパン
高級和洋菓子

合資会社　紅扇

各種板硝子・鏡
井伊ガラス
TEL 井伊代表

キハラ製図器
三角スール（竹・セル張り）
曲線定規
T型定規
その他製図用具一式
名古屋電気工業高等学校御指定
株式会社　大附商店
TEL（231）1744(代)